

知恵の樹

No. 147

2010. 2. 24

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243



今年は中央図書館 開館 20 周年！

町田市立図書館長 守谷信二

1990年11月30日、中央図書館がオープンしました。駅前の一等地、13階建てのホテルのビルに同居する図書館は、当時大きな話題となって全国から視察が絶えませんでした。オープン当日は、あいにく季節はずれの台風でしたが、それでも大勢の市民が入口に行列を作って、午後2時からの開館を待っていたのが思い出されます。あれから20年。この間、中央図書館だけで約2500万冊の本が貸し出されました。今年はまた、金森図書館が移転新築して10年、移動図書館「そよかぜ号」がスタートして40年、その上「国民読書年」でもあります。

こんな節目の年に、図書館としてもぜひ何か記念になる行事を実施したいと考えています。職員のアイデアとしては、図書館キャラクターの募集や中央図書館の20年を振り返るパネル展、記念講演会などが提案されており、まず記念行事の第一弾として5月2日(日)に町田を拠点に活動されているシンガーソングライター・田宮俊彦さんのコンサートを開催します。11月が本番ですが、市民の皆さんからもアイデアをお寄せいただき、皆さんと一緒に、図書館の記念すべき年をお祝いしたいと考えております。どうぞお力をお貸しくださいますよう、よろしく願いをいたします。

図書館は市民のもの、20歳の誕生日をお祝いしましょう！ 増山正子

町田の図書館は、住民運動主導型で発展してきました。1939(S14)年、鶴川村には大先輩浪江虔が、私立南多摩農村図書館を開設し、読書普及運動を繰り広げ、戦後多摩地域唯一の私立図書館として真光寺・野津田・恩方村などの有志宅に部落文庫を次々と開き、分館と位置づけて数百冊ずつ貸し出すなど、その動きは町田での図書館設置運動へと繋がっていきました。

1950年に主権在民の精神に基づく画期的な図書館法が制定されましたが、その2年後、町田町長らと都立図書館を町田に設立してもらう運動に取り組み、町田町立図書館は建設費の半分を住民の寄付に仰いでようやく1956年9月に町田町立町田図書館として第一小学校校庭の一隅にて開館したのです。蔵書958冊、閲覧中心で貸出なしの旧式図書館(180席)でした(町村合併により、市立図書館となる)。

62年、町田では日本で最初に「地域文庫」づくりが

始まります。文庫世話人たちは市長に面談して、図書館の飛躍的充実を要求、市議会に「地域文庫への図書貸出の大幅増加に関する請願」を出すなどして、団体貸出(100冊)が始まり、1966年には児童書に限って個人貸出(1人2冊2週間の館外貸出)をするようになります。

町田での図書館のスタート時を少しご紹介しましたが、浪江虔を中心とする我々の長い年月の市民運動が、日曜開館、地域館の増設、そして「町田市立中央図書館」誕生に繋がっていったのです。

市民の暮らしの中核になくはならない図書館の今後の発展を願って、11月30日を中心に、市民が主体となって図書館誕生祝いの一大会事をやりましょう！

すすめる会では、あらゆる分野の多彩な企画をお待ちしております。(すすめる会 代表)

「学校図書館で子どもたち一人ひとりと向かいあって」

講師：田沼恵美子さん(元お茶の水女子大学附属中学校図書館司書)

1月17日(日)14時～16時半 町田市民文学館会議室にて(参加 23名)

やっぱり学校図書館に司書は必要！ ベテラン司書の話聞いて

連続講座の2回目は、学校図書館で何ができるのか、何を中心に据えてつくっていったらいいのか、その基本のところを、田沼さんをお招きしてお話いただきました。田沼さんは長く日野市で学校司書を務め、その後お茶の水女子大附属中学校に移られて一昨年まで学校司書をしてこられたベテラン中のベテランです。語りやブックトークでも大変に有名な方で、そちらもご披露いただきたいのは山々でしたが、今回は学校図書館の運営の基礎をお話いただくことにしました。たくさんさんのテーマ展示の写真を映しながらの講演で、具体的なアイデアも満載、参加された方々のよい指針になったと思います。

お話は先ず日野市での実践と、その経過 — 日野は東京都内で15年前に初めて学校司書が置かれたのですが、その後いろいろないきさつがあって2年前に司書制度は廃止。頑張ってきた司書の方々はすべて辞められて他地域へ移られました。現在は有償ボランティア制度(といっても町田のそれとは待遇に雲泥の差があり)に変わりました — を話されました。とても悔しい思いをしたであろうことは、遠慮がちに話される中からも十分推察できました。

さて田沼さんが図書館をつくるに当って重視したことは、まず古い本の廃棄。本を捨てることは決して好きではないけれど、少なくとも図書館の中に、生徒たちの眼に触れるところに古い本は置かないこと。田沼さんは刊行20年が廃棄の目安と言います。次に書架配置の工夫で、高い書架がくし型に並ぶような配置はなるべく避け、棚を斜めにする、死角を作るなどの楽しい配置を心がける。貸出し方法の見直しも大切で、特に中学生ぐらいになると貸出し記録が誰からも見られる状態はよくない、そのためにはパソコン管理が最適だけれど(現在

町田では部分的に進行中)それが無理でもブラウン方式を採用するなどの配慮が必要。そして図書館の自由の尊重。有川浩さんの『図書館戦争』の冒頭に紹介されていることを取り上げました。田沼さんが昔大学で図書館学を学んだ時、前川氏に「サービスの大切さ」を教えられ、それがとても印象的だったエピソードも話されました。司書の基本は利用者へのサービスであることをいつも肝に銘じているとのことでした。そして図書館づくりの仕上げはサインと掲示で、目に付くわかりやすいサインを勧めます。

テーマ展示は季節ごと、またその時々のお話ごとにいろいろとされていて、数十枚の写真で拝見することができました。七夕には生徒も大勢願い事を書いた紙を飾ったり、トロの折り紙をたくさん並べたり、生徒と一緒に楽しんで図書館を飾っている様子が覗えました。

オリエンテーションも少しさわりを披露して下さいましたが、日野時代に仲間たちと作ったという赤頭巾ちゃんの人形を使っただけの自己紹介には、みなが驚きました。高さ40cmほどの赤頭巾ちゃんをくるっと反転させるとおばあさんになり、おばあさんの帽子をひっくり返すと今度はオオカミになります。子どもたちの希望のキャラクターでオリエンテーションを進めるのだそうです。小学生は無論、中学生だって大喜びでしょう。こういうのを作るのが得意な人が日野の仲間について、みなで一緒に作るのが楽しかったと、回想されていました。

オリエンテーションはお得意のストーリーテリングで始め、書架配置や貸出・返却の仕方などをざっと説明、分類の説明ではそれぞれからおもしろそうな本を選んで紹介します。あまり詳しく説明しすぎるよりは、とにかく図書館が楽しいところという印象を持ってもらうことを主眼に、そして「いつでも私がいて、皆さんを待っています」というメッセージを伝えるこ



とを強調していました。これは大切だと思います。ともすればあれもこれもと説明したくなってしまうのですが、子どもたちはそんなに長く説明を聞いてられるものでもありません。とにかくまた図書館へ来たいという思いにさせることが、オリエンテーションのポイントだと感じました。

ほかにも、教科の先生との連携から生まれたブックアウトや、全学年にむけて行った語りの会のこと、調べ学習支援のことなど、さまざまな実践についてもお話いただきましたが、印象的だったのは、日野時代のある生徒との関わり。毎日放課後やってきては隠すようにして本を読んでいた、ちょっと訳ありの生徒。一言も喋らない。なにか話しかけたいと思いつつ、話しかけることがためらわれる雰囲気、結局3年間話しかけられなかったそうです。

子ども向け外国文学へのご招待

木曾山崎図書館嘱託職員 高橋 峰子

ある日のこと

今日は、子ども向けに書かれた本の棚から整理を開始。返された本を元に戻すだけで開館時刻となってしまう日もあるが、時間がある限り、分野を決めて本の棚を整理し、手を入れ、どうしたら借りてもらえるか、ない知恵を絞ってみたりする。経験の浅さは、地道な基本で補うしかない(怠け者には一番苦手な方法だけど、ほかに近道がない!)。図書館の本棚って里山みたい、と思いつつ。

外国文学からとりかかると。ときどき、熱心さままって、自分独自の方法で本を並べ替えていく方がいる。「いつの間に…」と思うほどの並べ替えだ。「バカヤロー！」と叫びたくなる気持ちを抑えつつ、元に戻す。

残念ながら、子供向けの外国文学はあまり借りられないので、本の背はおなじみのものが多い。いつも「そこ」にあるから。それでもときどき「こんな本、あったっけ？」というものに出くわしたりする。今日のそれは『記憶の国の王女』(タウンリー作 布施由紀子訳 J933 タ)。表紙には本につぶして眠る少女とそれを見ているお姫様が描かれている。原題は“THE GREAT GOOD THING”何のことかさっぱり分からないタイトル。

「ほおおんが開くようう」

シルヴィは物語の中のお姫様。でももう何年もこ

ところが卒業してからその生徒から手紙が届いた。そこには虫眼鏡で読むような小さな字で「そっとしておいてくれてありがとう」と書いてあったのだそうです。いろいろな生徒がいます。そうした多様な生徒一人ひとりを「受け入れる」ことが、学校司書として教えられたことだという田沼さんのお話は、とても胸に響くものでしたし、同時に学校司書として関わる際の、心の持ちよを教えられました。

最後にお茶大ではやりがいのある仕事ができただけ、やっぱり日野ですと司書を続けていたかったと万感の思いで語られたのが、ずっしりと心に残りました。どんなに無念だったことかと、運動の進め方を含め考えさせられました。

(会員:水越規容子)

~~~~~  
の本は開く人がいなくて、衣装も森もみんな色あせしてしまった。退屈が極限にきたころ、「ほおおんが開くようう」という声が出て、数年ぶりの読者を迎える。ぶらぶら本の中を散歩していた登場人物はみんな所定の位置へ大急ぎで戻る…。

知ってました？本が閉じている間、登場人物たちは退屈しのぎに、ほかの場面へ出かけたりしていたのですよ。でもたまに戻るのが遅れて、間違った小道具に手を置いて舞台をだいなしにしたり、せりふがめっちゃめっちゃになったり、ヨシモトみたいなドタバタが起こる、らしい。それがあまりにも面白いので、読者はあとでそのシーンを探そうとするのだけれど、見つからない…そういうことって経験ありませんか？ありますよね。確かに読んだはずなのに、見つからない。それは、こんな事情だったのですよ。

といったことから、この物語は始まり、やがて読者(あのつぶぶした女の子)と物語の深いつながりへと進んでいく。「大人になった、老人になったあなたを支えるのは、あなたの子供時代」という石井桃子の言葉が思い出されるような、また、かけがえのない本は何代にもわたって読み継がれていく、というストーリーが展開される。ちなみに、あの意味不明な原題『とてもすてきなおおきなこと』の謎も、なるほど、となる。

真面目にお仕事していた役得で、こんなに面白い本と出会ってしまった。さて、これをどう利用者に知ってもらおうか。ひと気があまりない子ども向け

外国文学の棚の前でまた考え込む。

## 「退屈している」本に読者を

先日、新聞に取り上げられたおかげで、長い間眠りについてた『フランバーズ屋敷の人びと』（ペイトン作 掛川恭子訳 J933 ペ）に予約まで入るようになった。

これは第一次世界大戦をはさんだイギリスの女性の半生記で、飛行機草創期の飛行機乗りたち、世界大戦がヨーロッパに残した傷(戦後の女性たちの苦難や捕虜のこど)など、これが子ども向け？と思うような5巻からなる壮大なドラマだ。

同じ時代を扱ったものに、『ヒルクレストの娘たち』（ハリス作 脇明子訳 J933 ハ）がある。激動のイギリスを生き抜いた4人の姉妹たちの物語が1巻ずつ語られ、話の美しさとともに、日本にはあまり影響を残さなかった第一次世界大戦が欧州の人たちにもたらした深い爪痕を改めて考えさせられる。だが、こちらはずっと棚に収まったままだ。『フランバーズ』をお読みになった方、こちらもおす

めです。

ねずみの奥さんがある日自我に目覚めたり、エドワード7世の時代の女の子が遠い航海に夢をはせたり、あの有名なおさるが大活躍、メトロポリタン美術館へ家出した姉弟が見つけたものは？、でぶでのろまと思われていた男の子が乱暴者から不幸な友達を守る冒険をしたり、毎度おなじみ4人の兄弟がヨットで航海、あるいは魔法の船を手に入れて…と、子ども向け児童文学は、「外国」というおおざっぱなくりのため、英米が中心ではあるが、各国の物語が著者のアイウエオ順でなっていて、かえってバラエティに富んだ棚となっている(それはそれでどうなの？という異論もあるが…)。

ほかにも紹介したい本はたくさんあるが、ぜひ、図書館の子ども向け児童文学の棚を、大人の人にもぶらぶらしてみたい(これを図書館用語？で「ランプリング」というらしい)。そして手にとってみて。「ほおおんが開くようう」という声が聞こえるかもしれないから。

## リレー・エッセー 「知る」ための読書

町田市職員 芥川 靖之

「読書や図書館について」…ということでこの原稿を依頼されましたが、恥ずかしいことに私は読書とは関わりが薄い人間のため、困ってしまいました。なにしろ、昔から活字より数字の方が好きな理系人間だったもので…。

ただ、そんな私でも大学時代だけは読書の習慣がありました。当時の私は片道一時間半かけて大学に通っていたのですが、電車に乗っている時間がそのうち1時間で、往復2時間もあったのです。それだけの時間をただ電車内で突っ立っているだけでは勿体ないと思い、とりあえず何かの講義のテキスト本を読み始めたのがきっかけでした。

その後間もなく、興味のある分野の本を読むようになりました。大抵の人は小説や物語を読むのですが、私の場合は理科系の本がほとんどで、最終的に専門とした地球科学(高校の科目でいう「地学」です)の分野が中心でした。それなりに混雑する路線に乗っていたため、あまり嵩張らないサイズの本が多かったです。

活字慣れしていないため読む速度は遅かったのですが、集中していると、電車内の雑音が耳に入ってこなくなるのが不思議でした。内容にもよりますが、月に1~2冊くらいは読んでいたでしょうか。それまでの私としては、なかなかのペースだったと思います。

巻末の参考文献欄等を見ると、次に読みたい本がどんどん増えていくのですが、中には古くて絶版になっていた本もあったため、古本屋を何軒か回って探したことも良い思い出です。

暇つぶしと興味から始まった読書ですが、これらの本を読んで得た知識は、研究室で卒業論文を書くに当たり少しは役に立ったのではないかなと思います。また、地球科学という分野は山や地形も扱うので、旅行した先で本に載っていた風景を実際に見たり、博物館に寄ってみたり、というのも楽しみの一つになりました。

現在は通勤時間が短く、そのような本もあまり読まなくなりましたが、たまに本屋で読みたい本を見つけると買うこともあります。結局、そのまま本棚で眠りっぱなしになってしまうのですが…今回のこの原稿をきっかけに、未読の本に手を付けたくなりました。

## 町田市立図書館協議会の報告

### ●第4回 図書館協議会

／2010年1月27日(水)13時～17時

今回は、市内の図書館視察を行いました。さるびあ・堺・木曽山崎・鶴川・金森の地域館を視察し、市立図書館の現状把握に努めました。委員の感想は、第5回協議会で話されました。

### ●第5回 図書館協議会

／2月16日(火) 9時30分～12時

まず館長報告、その後、委員からの質疑応答、協議会として議論が行われました。内容を要約して報告します。詳細な議事録は、後ほど町田市図書館HPにて公開されますので御覧ください。

### 館長報告

#### 1. 第11回教育委員会報告(2/5開催)

(1) 第二次町田市子ども読書推進計画が承認される。2010年から五カ年計画を実施。3月議会の行政報告で取り上げる予定。

(2) 文学館森村誠一展(2009年10/17(土)～2010年1/17(日))の報告

今回は有料展であったため入場者数があまりのびなかった。但し、熱心なファンの来館や市外からの問い合わせはあった。

(3) 図書館情報システム更改のための臨時休館

図書館情報システムの更改は2003年以来。今回はハードの入れ替え。そのため2/22(月)から2/26(金)まで全館休館措置(BMも)をとる。web-OPACも2/19(金)18時～2/27(土)10時まで停止。更改後は、web上で資料の貸出延長処理が可能になる予定。

2. 今年は、移動図書館開始40周年、中央館開館20周年、金森図書館開館10周年。これに因む企画を立案中

3. 都立図書館多摩地域資料再活用問題の経過報告

東京都市町村立図書館長協議会例会(2/3)にて対処の方向性を決める。①多摩地域資料24676冊は八王子市立図書館が永年保存予定に。

②東京都全体及び島嶼等資料36147冊については、島嶼部分を島嶼の図書館が抜き取り、さらに国会図書館へも1000冊余り抜き取られる。都全体の資料は青梅市立図書館が、近県に関する資料はそれぞれ近隣の図書館が引き取り、全体を分担して引き受ける方向に。今後一般書の重複本処理も俎上に載ることになる。

#### 4. 市民センター(忠生、小山)での返却資料受取りサービス

1/18(月)から忠生、小山の両市民センターにて図書館への返却資料受取りサービスを開始。本庁舎のメール便車両を利用。10日間の実績では、小山市民センター19人66冊、忠生市民センター17人53冊で1日平均3.6人11.9冊。まだ周知されていないので現状は以上。4月以降は図書館の物流で行い、9月には貸出も計画中。

#### 5. 京王線沿線7市連携協議会の報告

①1/22(金)、稲城市立iプラザ図書館(京王線若葉台駅前)見学。

②相互利用に関わる延滞の問題。相互利用市民が延滞をした場合、督促をどの様にするのか?特に利用者が転居してしまった場合、住所追跡のため住民票の公用申請が考えられるが、個人情報の問題や各自治体の扱いも異なるので対応方法について調整中。

#### 6. 新年度の嘱託職員採用について

1/30(土)に第一次試験(適性試験、論文)を実施。15名採用のところ応募227名、受験202名。一次合格者35名。2/18(木)には第二次試験(面接)を予定。

### 第4回協議会地域館視察の感想(要点)

①リクエストの多さ(特に鶴川、金森)。市民の活発な利用が実感される。それに対する少ない職員体制での職員の苦勞が感じられた。その結果、他のサービスへの影響が懸念される。

②図書館の狭さ(特に鶴川、木曽山崎)。既に満杯の状態。市内6館といってもその差は大きい。

③①と②に起因する職員の労働環境の厳しさ。館による差が大きい(特に鶴川)。

④老朽化に伴う問題(バリアフリーなど)(さるびあ、木曽山崎)。

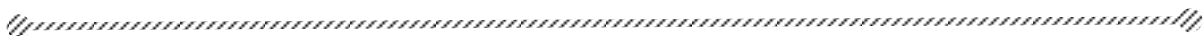
- ⑤配架など各館ごとの工夫があった。(特に堺)
- ⑥利用者の自家用車利用が多い。今後とも駐車場が必要。
- ⑦町田は面積が広い。もっと図書館が必要。現状ではBMや市民センターの本の受け渡しも重要。
- ⑧各館が町田の図書館の歴史を反映している。地域で育てているものを大切にしたい。

以上の視察結果を今後の協議に活かしたい。

## 協議事項

### 1 「町田市立図書館の運営理念と目標のあり方について」館長諮問

館長の表記諮問を受けて、市民の考えと職員の考えを取り入れた図書館運営理念を検討する。今後、町田の図書館としてどういった方向に進むのか？そのあり方を協議会として提言することに。



## 新会員です。どうぞよろしく！ 公共図書館は自分の部屋？！ 山根 康弘

何か書けと言われて、困り果てた挙句、まずは商売道具の地図を開いてみることにした。他の自治体の公共図書館の立地やアクセスなどを調べてみて、それについて何かしら論じてやろうと考えた次第だ。

ところが、すぐにそれが難しいことであることが分かった。地図で公共図書館を探すことができないのだ。「公共施設一覧」から探そうとしても、「図書館」の項目がないのだ。「博物館」と「公民館」の項目はあるにもかかわらずだ。なんてこった。

しかし、よく考えてみれば「地図で公共図書館の場所を探す」というのは、かなり特殊な状況なのではないだろうか。遠方の公民館や博物館へは、特別展や講演会などで、私も何回も行ったことがある。その際に、地図で行き方を調べたこともある。だが、見知らぬ土地の公共図書館へ行くというのは、先の2つに比べればはるかに機会が少ないだろう。あったとしても、国会図書館や専門図書館がほとんどだ。自分の街の図書館の場所をどうやって知ったのか、と聞かれれば、いつの間にか、としか答えようがない。

そんなことを思い返しているうちに、私なりの公共図書館の新たな位置付けが見えてきた。公共

出来るだけ早く策定したい。次回協議会までに各地のサンプルを収集、審議スケジュールを立てたい。

## 2 多摩地域の図書館協議会の連合化

(委員長発案)

多摩地域の公立図書館の状況変化に対応していくために多摩地域の図書館協議会を横断して連絡を取り合う必要があるのではないかと。東京都多摩地域公立図書館大会の中で図書館協議会部会が形成できれば、そこで集まると良いのではないかと。本件については委員の了承が得られたので今後館長協議会に協力も仰ぎ、推進する方向へ。

(図書館協議会委員 山口 洋/会員)

◎次回協議会は3月23日9時30分からです。傍聴可能です。

図書館は、生涯学習における「自分の部屋」みたいなものではないだろうか。自分の部屋なのだから、地図で探すことに違和感を覚えるのだ。地図を見て行く、自分の街の、あるいは他所の街の、博物館や公民館で学んできたことを、帰ってきてから、掘り下げ、反芻し、体得するために必要な場所なのだ。まあ、素人の思い付きなので、お叱りは多数頂戴するだろうが、私自身は、この理屈で自分自身の感覚に納得がいった。しかし、仮に公共図書館を自分の部屋だと考えるならば、「自分の部屋がない人達」はどうなるのだろう。興味をもったものを調べようと思い、家に帰ってきて調べる場所がない。そのうち諦めて忘れてしまう。それでは、あまりに寂しく、勿体ない。

せっかく自分の部屋があるのだから、使わなければ損だ。損か得かで考えるのはどうかとも思うが、間違いなく損だ。より多くの人に、この場所を使ってもらいたいと願うとともに、自分が快適に使えるような提案を少しでもできればと考えている。

ちなみに、27歳、図書館とは全く関係ない業種の会社員である。この文のお題は自己紹介だったような気がする。とってつけたようだが、この駄文を以って私の自己紹介とさせていただきます。

## 調べる ミウラ折り

町田市役所 石井 一郎

1月26日にNHKテレビの爆問学問を見た。爆笑問題の二人が東大名誉教授の三浦公亮宅を訪問し、教授の考案した「ミウラ折り」について話を聞く対談番組。ミウラ折りは折り紙の技術の一つで、宇宙空間での建築に応用できる技術として有名である。

このミウラ折りについて、岐阜県立図書館のレファレンス事例があり、「図書館雑誌1998年8月号」で紹介された。質問は「宇宙船の太陽電池の格納方法で折り紙の技術『ミウラ折り』の折り方が知りたい」だった。担当者は、百科事典や宇宙工学や折り紙の本で調べたが見つからず、インターネット検索により考案者と出典として雑誌の「BE-PAL 1995年1月号」で回答した。

この記事を読み、自分も調べてみた。町田市立中央図書館で言葉から調べ始めた。百科事典ではなく、『現代用語の基礎知識1998』の索引をみていたら、「ミウラ折り地図」があった。「ミウラ折り地図」の項を見ると、1970年代に三浦公亮が考案した地図の折り方で、宇宙工学に応用され若田宇宙飛行士が太陽電池パネルをスペースシャトルに回収するとき使用したと記述があった。若田さんの新聞記事でも確認をとったが、折り方はなかった。『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』を三浦公亮で調べると2件あった。書店でも探していると地図のコーナーに『最新 地形図の本』大森八四郎(国際地学協会1997年)があり、「三浦式折り方(仮称)」として紹介されていた。1976年に8月に日本国際地図学会で発表されたことと図も載っていた。

大宅壮一文庫へ行き、雑誌を調べたところ「諸君1995年11月号」に折り方の図があった。

再度、町田市立中央図書館で調べてみた。『読売年鑑 人名簿』で三浦公亮が町田市在住であることが判明したので、郷土資料コーナーで『東京都町田市人物・人材情報リスト』(日外アソシエーツ)を見ると「科学朝日1988年2月号」に記事があることがわかった。

神奈川県立図書館へ行ったついでに「科学朝日」を閲覧したところ、折り方の記事があった。

その後、書店にてゼンリンで発行したミウラ折り

の登山地図を見つけ、『丹沢山塊2000年版』を購入した。図書館の後輩から折り紙の本にもあるらしいことを聞いたので探していたが見つからなかった。昨年、書店で『本格折り紙』

前川淳(日貿出版社2007年)の索引からミウラ折りが見つかった。上級篇として孔雀の折り方に使われていた。『本格折り紙』の巻末の参考文献にあった本を都立中央図書館へ行き、閲覧した。『折り紙の数理と科学』トーマス・C・ハル著、川崎敏和訳(森北出版2005年)の13章にミウラ折りあり、参考文献に「地図1977年7月号」に地図の折り畳みの新しい方法という題の記事あり。

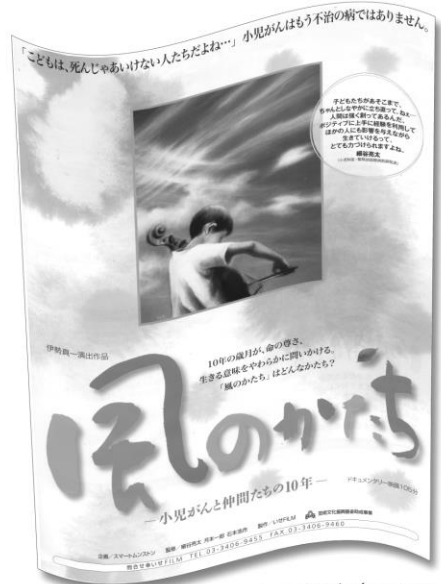
ミウラ折りを10年にわたり、調べてきた。まだ、探さきれていないと思っている。これからも探し続けていきたい。

(追伸)『現代用語の基礎知識』の最近のものには「ミウラ折り地図」は載っていない。

2008年10月4日のNTVの「ぶらり途中下車の旅」の千代田線の湯島駅で「MIURA-ORI-GROUP」という会社を旅人のマギー審司が訪問したところ、三浦公亮さんがいた。太陽電池パネルの映像も見ることができた。

### 3月14日(日)14時~町田中央図書館で上映

文化庁映画賞受賞記念 上映会 in 町田



二〇〇九年第八回キネマ旬報文化映画ベストテン3位

### 風のかたち - 小児がんと仲間たちの10年 -

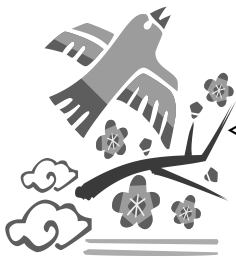
日時: 3月14日(日) 14:00~15:45 (開場 13:30)

映画上映後 トークショー 16:00~

伊勢真一監督(町田市在住) & 羽賀涼子さん(元患者・町田で生まれ育つ)

会場: 中央図書館6Fホール 券042・728・8220 参加費: 800円 小・中学生は無料

共催: 町田の図書館活動をすすめる会・町田市立図書館 申込・問合せは裏面に記載



# ひろば

<1月例会報告> 20日(水)  
16:30~会報146号印刷  
18:00~20:35 例会  
於・中央図書館ホール

出席者:石井、伊藤、久保、鈴木、高橋、  
手嶋、増山、丸岡、守谷、山口、山根

○新入会員・山根康弘さん自己紹介記事(6p)

○会報147号について

・巻頭言は中央図書館開館20周年について、市民に呼びかける

○中央図書館開館20周年について

・職員がいろいろ考えている。/特別映画会、歴史パネル展示、キャラクター募集、特別おはなし会、各関係機関との共催事業など(1P参照)

・市民と協働行事を考えられないか/児童関係の団体が連携しておはなし会など/子どもに入口の飾り付けをしてもらおう/市民ホールと共催してチャリティで図書館資料を購入する、などなど。11月30日前後の会場を早く押さえて欲しい。

○生涯学習センター構想で、公民館、市民大学の位置づけ、差異がよく分からなくなっている。社会教育の委員会でも混迷。市民からの反発も大きい。生涯前後の教育構想から図書館がはずれているのは、理解しがたい。生涯学習全体を見る視点が必要。審議会をつくってはどうかという話が持ち上がっている。

○3月14日(日)ドキュメンタリー映画「風のかたち—小児がんと仲間たちの10年—」上映に際して、大勢の観客を動員しましょう!

## ドキュメンタリー映画 上映会

「風のかたち—小児癌と仲間たちの10年—」

3月14日(日)14:00~(105分)上映/16:00~

伊勢監督と羽賀涼子さんのトークショー

中央図書館ホール

共催:町田市立図書館、参加費800円

\*前号訂正:町田ブックトークの会例会は、さるびあ図書館で毎月第2月曜13:30~16:00です。

2010年度 第12回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

3月18日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

### プログラム

- \*町田ゆかりの作家「国松俊英」 山本由佳
  - \*「もの花酒」(日本の民話) 小山千鶴子
  - \*「東雲寺の誕生仏」(町田の民話) 太田晶子
  - \*「梅の木村のおならじいさん」(創作)丸岡和代
- <語り:まちだ語り手の会> 直接会場へ!



○恒例の広瀬恒子さんによる講演会↓

## どの本読もうかな?!

毎年楽しみにしている広瀬さんお勧めの子どもの本年間3,000タイトルもの出版状況の中から、きっと、子どもたちに手渡したい旬の本が見つかります

3月21日(日) 14:00~16:00

町田市立中央図書館6Fホール

直接会場へどうぞ 資料費500円

主催:町田の図書館活動をすすめる会



☆第3回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》/3/6(土)~14(日)/ベルブ永山(永山公民館)、多摩市立図書館の各館を会場に、10:00~17:00迄、赤ちゃんから大人までの多彩なイベントが繰り広げられる。詳細は多摩市立図書館のHPをご覧ください/主催:多摩市子どもの読書活動推進連絡会(問い合わせ:事務局の多摩市立図書館へ ☎042-373-7955)

☆①シネマでトーク「バクダッド・カフェ」(米国)/3/9(火)市民フォーラム3F活動室/無料、②学習会「世界から見た日本の男女平等」お話し:坂本洋子さん(フリージャーナリスト)/市民フォーラム4F第2学習室/無料・保育あり(3/4迄申込)/問合せ:町田市男女平等推進センター(☎042-723-2908)

【あとがき】「♪春なのに~、春なのに~、ため息またひとつ~♪」市長・市議選が終わりました。投票率はたった50%。これでは世の中よくなりませんよね~。的確な情報判断が出来るようになるには、情報処理能力・読解力が必要。図書館へ!(M<sup>4</sup>)